

- 1 報告地区 : 釧路
2 事例報告学校名 : 弟子屈町立和琴小学校
3 報告者職・氏名 : 校長 鳴 海 厚
4 キーワード : 土曜授業 豊かな体験活動 地域に開かれた教育課程



「たくましく生きる力」を育む土曜授業 ～体験活動を充実させ、家庭・地域との連携を深める～

1. 本校の概要

本校は学級数 5（うち特別支援学級 2）、児童数 13 名の極小規模校です。校下は阿寒摩周国立公園内にある屈斜路湖と湖畔に突き出た和琴半島を中核とした観光レジャー地域であり、自然豊かな場所です。地域の産業は農業、観光業が中心となっており、地域・保護者とも学校への関心が高く、非常に協力的です。

2. 「たくましく生きる力」を育てる

児童は豊かな自然環境の中、明るく素直に成長しており、学力も平均的なレベルです。しかし、へき地小規模校ということもあり、社会的な体験の機会が少ないことや大集団の中でのコミュニケーションの経験が少ないことなどから、自分の考えを分かりやすく相手に伝えたり、まわりと協調したりしながら学習を進める力に弱さがみられました。そこで、本校を卒業した後の「将来」を見据え、不足しがちな社会的体験活動や様々な人と関わりをもつ活動を充実させることが必要と考え、その手だてとして「土曜授業」を活用しています。

3. 社会性を育み、自己肯定感を高める豊かな体験活動

教科時数が増え、行事の精選が進む中、本校でも様々な体験活動が見直されてきました。しかし、土曜授業を取り入れることによって生まれた「ゆとり」が他校には無い「強み」となり、本校ならではの体験活動を可能にしています。

① 敬老会（地域連携）



自治会が主催する「敬老会」に全校児童が参加し、遊戯などを発表しました。大勢の前で発表することの少ない子どもたちはやや緊張気味な様子だったものの、練習どおり発表することができました。中には涙を流すお年寄りの方もいて、それを見て自分たちの発表に手応えを感じました。また、協力依頼していた自治会の方々も感激され、お礼ということで、後日、本校が開催した学習発表会に多くの地域の方々が来校しました。このように、「敬老会」は地域との双方向の関係を築く、貴重な機会となっています。

② 合同体力テスト（学校間連携）

競い合う相手が少なく、自らの記録を伸ばそうという意欲が低い子どもたちに対して、土曜授業を活用し、近隣校と合同の体力テス



トを実施しています。個人の成績を実施前と比べると、全ての児童の得点が伸び、一人一人の大きな自信につながりました。このように同年齢集団との関わりは一人一人の意欲を引き出すとともに、積極的なコミュニケーションを生み出す機会となっています。

③ アイヌ文化体験（関係機関との連携）

本校校区はアイヌ民族との関わりが古くからある地域です。そこで、町教育委員会生涯学習課と連携し、地元のアイヌ文化保存会の方に講師をお願いして、「アイヌ文化体験教室」を開催しました。



1年目は「アイヌ文様刺しゅう」、2年目は「アイヌ料理作り」に挑戦しました。さらに今年は「アイヌ舞踊」に挑戦する予定です。このように複数のプログラムを用意することで、マンネリ化を防ぎ、教育課程に位置付けることができました。また、この活動に保護者の参加も呼び掛けることで、土曜授業の内容を理解してもらうとともに、学校、家庭、地域の連携がスムーズになりました。

④ アウトドア体験（PTAとの連携）

本年8月、名称変更により「阿寒摩周国立公園」が誕生し、一大観光地に位置する本校には観光業に従事するPTAの方もいます。その方々は、夏はカヌーや乗馬、冬はクロスカントリースキーやスノーシューを使って多くの観光客に地域の大自然をガイドしています。そこで、子どもたちにも地域の大自然に触れ、ふるさとに誇りをもってもらおうと、PTAに「カヌー教室」「乗馬教室」「クロスカントリースキー教室」の協力を依頼しました。その結果、プロのガイドであるPTAの方々の指導の下、地域の大自然にたっぷり触れることができました。このことが子どもたちの「故郷を誇りに思う気持ち」につながりました。



4. 結びに

「小規模校」「へき地校」というとマイナスのイメージをもつ方も多いかもしれませんが、本校はこのことを「強み」ととらえ、他校にはない特色ある教育活動を進めています。これが家庭や地域、子どもたちにとって「誇り」となり「自己肯定感」を高め、「郷土愛」を育むこととなります。そのためにはこれらの活動が一時的な「イベント」となるのではなく、教育課程の中にしっかりと位置付けられること。教育内容に専門家の意見を反映し、その方々が「主体」となって子どもたちを指導すること。それが「社会に開かれた教育課程」を実現する上でのポイントになると考えます。

さらに、学校の統廃合が進む中、地域社会は学校に対し、「義務教育機関」としての機能だけでなく「地域社会に積極的に貢献し」「地域のセンター的な役割を担う」学校への変容を求めているのではないかと感じました。

本校もこの「土曜授業」を通じて、保護者や地域社会から協力してもらうだけでなく、「協働」「交流」「双方向」をキーワードに「地域に積極的に貢献する」学校となり、地域に活力をもたらす学校づくりを進めていきたいと考えています。